

第46回 全国学童保育 指導員学校 北関東会場

放課後児童支援員等の資質向上のための研修会

本研修会は、学童保育指導員(放課後児童支援員等)の資質向上のための研修です。
全国10会場で開催し、5,000人以上の方が子どもたちの放課後の生活を豊かにするために学んでいます。どなたでも参加できます。

オンライン(zoom)による研修 **受講料 2,000円**
2021年6月13日(日) 12:15 受付(入室)

	12:15	13:00	15:00	15:15	17:45
研修内容	受付(入室)	全体会	休憩	13講座	

● 全体会 ●
基調報告 全国学童保育連絡協議会

● 全体講義



ケアする心、励ます心

— 子ども理解を深め合うまなざし —

【講師】庄井良信氏

(藤女子大学人間生活学部子ども教育学科教授)

- 1960年北海道生まれ。広島大学大学院博士課程修了。北海道教育大学教授などを経て、現在、藤女子大学教授。専門は臨床教育学。家庭・地域・学校教育の現場で、さまざまな悩みや困難を抱えた人びとの人生に寄り添いながら、教育相談活動に参画。また、フィンランドなどの大学と共同で、ファンタジーを大切に人生の物語を紡ぐ学び(ナラティブラーニング)に関する理論的・実践的な研究を実施中。現在、日本臨床教育学会会長。
- 著書に、『揺れる子どもの心象風景』(新読書社、1999年)、『癒しと励ましの臨床教育学』(かもがわ出版、2002年)、『自分の弱さをいとおしむ—臨床教育学へのいざない』(高文研、2004年)、『フィンランドに学ぶ教育と学力』(共編者、明石書店、2005年)、『いのちのケアと育み—臨床教育学のまなざし』(かもがわ出版、2014年)など多数。

主催：全国学童保育連絡協議会

後援(予定)：茨城県・茨城県教育委員会

■ お申し込み方法 ■

お申し込み・参加費振り込みは下記 URL をご覧ください。

<https://drive.google.com/file/d/1MtpwmHogWAaz643rUplRaCpyjIYXD1mZ/view?usp=sharing>



- 1台のパソコンで複数の方が受講も可です。ただし受講料は1名あたり2,000円となります。その場合受講は1つの講座になります。受講料2,000円を振り込みのうえお申し込みください。
- 携帯電話会社が提供するキャリアメール(**@docomo.ne.jpなど)ではお申し込みになれません。

● 振込先口座
ゆうちょ銀行 019店 当座預金 0093727
(郵便振替 00160-7-93727)
名義 埼玉県学童保育連絡協議会

- 申し込み用メール gakudoust@gmail.com (埼玉県学童保育連絡協議会)
- 申し込み締め切り **5月31日(月)**
- 申し込み受付後 6月1日までに、資料や接続練習会、ZOOMの接続情報等、受講に必要な事項をまとめ、指定のメールアドレスへ送ります。
- 接続練習会 6月3日(木)、4日(金)の両日、午前10:00~11:30、午後8:00~9:30にZOOMの接続練習会をおこないます。ZOOMの操作に不安がある方は練習会への参加をおすすめします。
- キャンセル 6月7日(月)までに、メールでご連絡ください。事務費(振込手数料)を差し引いた額を返金いたします。6月8日(火)以降のキャンセルは返金できません。

申し込み・
問い合わせ

埼玉県学童保育連絡協議会
〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町4-147-1 藤本ビル3階
TEL. 048(644)1571 FAX. 048(644)1572

第46回 全国学童保育指導員学校・北関東会場 講座

*講座の末尾の番号は、全国学童保育連絡協議会が作成した「指導員の研修課目(試案)」に該当するものです。

● 入門講座 指導員として基本的な事項を学びます。

1 学童保育とは何か、指導員の仕事・役割は何か

【講師】佐藤正美 (埼玉県さいたま市指導員、全国連協) I-1-④ II-1-① III-1
学童保育は子どもたちに、安心してあそび、育ちあう生活を保障することで、保護者の労働と家庭の養育を支えています。指導員には子どもたちが安心して学童保育に帰ってこられるように、一人ひとりを理解し、生活の見通しが持てるよう寄りそうことが求められます。この講座では、指導員の仕事・役割、生活づくりで大切にしたい視点などについて具体的に学びます。

2 日々の記録から実践の記録へ

【講師】橋本晶子 (埼玉県坂戸市指導員) V-1
日々の保育を記録することは、指導員自身が保育内容を振り返って確かめ、より豊かな実践をつくっていく上で大切な仕事です。記録をもとに指導員どうしが話し合い、検討し、学びあうこと、この積み重ねが実践の向上につながります。また、国の「放課後児童クラブ運営指針」にも記録の必要性が示されています。実践を記録することの意味から、実際に記録を書いていることまでを学びます。

*理論講座3~10、実践講座11・12、運動に関わる講座13は裏面をご覧ください。

*講座の末尾の番号は、全国学童保育連絡協議会が作成した「指導員の研修課目(試案)」に該当するものです。

●理論講座 子どものことをより深くとらえるために専門的に学びます。

3 **子どもの権利条約第31条に学ぶ ~遊びは子どもの主食です~**

【講師】森本扶 (埼玉大学等非常勤講師、子ども白書編集委員長) III-1 IV-2

「子どもの豊かな成長・発達を保障する『子ども期』の充実のためには、子どもの遊びと文化は不可欠の権利であり、特に『遊びは子どもの主食』なのです(増山均氏)。子どもの権利条約31条は、休息・余暇の権利、遊び・レクリエーションの権利、文化的・生活・芸術への参加の権利を定めています。学童保育は子どもたちに遊びと生活を保障する場。子どもの権利条約を学童保育にどう活かしていくかを学びます。

4 **発達障害の子どもたちの理解と支援**

【講師】伊勢正明 (白鷗大学教育学部発達科学科教授) III-4

生活の中で落ち着かない、ひとの話が聞けない、言葉の前に手が出てしまう「ちょっと気になる子」。「LD」「ADHD」等、発達障害だと特別扱することで解決することではありません。そうした子どもをどう理解し、支援していくか、学童保育の生活の中で何ができるかを考えましょう。

5 **子どもとのかかわり方 ~作業療法士の視点から~**

【講師】仲間知穂 (こども相談支援センターゆいまわる代表) III-6-③

作業療法士には、「生活」と「遊び」から子どもの発達支援をする”方たちがいます。まさに学童保育と同じですね。作業療法士の視点から、子どもの「生活」や「遊び」を捉え直してみましょう。子どもたちの行動一つひとつを見る目が変わります。また、子どもの不思議な行動や、大人には「困った」と感じる行動にも、ちゃんと理由があることがわかります。どの子どもにとっても、指導員にとっても、毎日の生活が楽しくなるヒントが満載です。

6 **教室の中の子どもたち ~学校と学童保育~**

【講師】上野琢也 (埼玉県秩父市立高篠小学校教諭) III-2-②③

学童保育の子どもたちは、学校と学童保育で生活しています。学校と学童保育とで、見せる顔が違うこともよくあります。指導員は、学校での子どもの様子を知ること、子どもたちへの理解が深まります。学校現場は、いじめや学力などたくさんの課題・問題を抱え、多くの教師は悩みながら子どもと向き合っています。学校は今どうなっているのか? 学校・教師と学童保育がどう連携して、子どもを支援していくかを学びます。

7 **子どもとネット、どう付き合えばいいの? ~ネット社会で大人ができること~**

【講師】渡辺雅之 (大東文化大学文学部教育学科教授) III-2-④

今、スマホを持つ、持たないにかかわらず、ネットと子どもは切り離せない関係になっています。ネットは便利な反面、特に子どもにとっては、重大な危険をはらんでいるものでもあります。ネットとどう付き合っていけばいいの、指導員も保護者も悩んでいる方が多いと思います。“ネット社会に生きる子ども”を理解した上で、大人の私たちができることを一緒に考えていきましょう。

8 **児童虐待を考える ~虐待は子どもの何を奪うか~**

【講師】小宮純一 (ジャーナリスト) III-1-② IV-6-⑤⑥ IV-7-③

児童虐待は、無くなるどころか、最近も児童虐待のニュースが後を絶ちません。学童保育は、子どもの生活と密接に繋がっているため、指導員は時として児童虐待の第一発見者となる場合があります。一方で、学童保育における児童虐待も残念ながら起きています。児童虐待をなくすためには、まず児童虐待について正しく理解することが必要です。そして私たちにできることを学びましょう。今回は特に子どもの愛着に焦点を当てます。

9 **多様な性を持つ子どもたちへの理解 ~LGBTs**

【講師】中村好子 (京都府・元養護教諭)

子どもたちを「普通」に「男の子」「女の子」とくくってしまう…。そのなかで違和感を胸に秘め、苦しんでいる子どもたちがいるかもしれません。「普通」って何? セクシュアリティは虹のように多様です。一人ひとり違って当たり前。誤解されることが多い「性」について、まず私たちおとなの側がしっかりと学ぶことから始めてみませんか?

10 **新型コロナウイルス感染症と子どもたち ~子どもたちの日常を取り戻すために~**

【講師】種市尋宙 (富山大学学術研究部医学系小児科学講師) II-2

新型コロナウイルス感染症のもと、1年以上にわたって、指導員は感染症防止と子どもの生活保障の狭間で緊張した保育を強いられてきました。未知の部分が大きいウイルスとの関係では、科学的知見にもとづいて「正しく恐れる」立場が大事です。新型コロナウイルスとは? 適正な感染対策とは? 変異株の子どもへの影響は? など、子どもへの対応の留意点を学ぶとともに、過剰な感染対策は逆に子どもたちにとって問題があることも学びましょう。

●実践講座 指導員の仕事を実践的に学びます。

11 **子どもの生活を保護者と伝え合う**

【講師】鶴貝りさ、川岸俊 (栃木県足利市指導員) IV-6

保護者は、わが子が学童保育に楽しく通い、育っている実感があって、初めて安心して働き続けることができます。保護者と伝え合うことの重要性、何をどのように伝え合うのかを学びます。コロナ禍で、保護者会が開けない中、新しい伝え合いの方法も紹介します。

12 **学童保育の職員集団と職員会議のあり方を考える**

【講師】實方由佳 (岩手県立大学社会福祉学部准教授) II-3-③ III-3-⑤

指導員は運営指針等によって、自ら判断して対処する場面が少なくありません。ときには、同僚と意見が食い違い、すぐには一致できないこともあります。職員間で折り合いをつけ、どう対応するかを決める必要があります。また同時に、それぞれが自分の課題意識にもとづき、継続的に子どもを観察し、ケース検討(事例検討)等を通して、職員集団としての共通理解を拡げていくことが大切です。

●運動に関わる講座 学童保育をめぐる情勢と課題、指導員の労働条件改善など運動に関わる問題を学びます。

13 **学童保育と指導員をめぐる情勢と課題**

【講師】高橋誠 (東京都文京区指導員・全国連協) I-1-②

学童保育は、新型コロナ感染症拡大防止の手立てを講じながら、子どもたちに「生活の場」を保障してきました。学童保育の果たす役割や重要性の社会的認知が広がった一方で、その施策の脆弱さも浮き彫りになりました。あわせて、「従うべき基準」の参酌化、委託・民営化、企業参入など運営主体の変更、第三者評価の導入など、多くの課題を抱えています。学童保育の目的・役割をふり返りながら、これからの学童保育のあり方、指導員の課題を確かめあい、運動の視点を学びます。